

たかおこ誌

5
2022.01.01

謹賀新年

『たかおこ誌』2022年の第1号は「書き初め」企画。各隊員が筆をとり、白紙の半紙に決意をあらためました。次ページ「私の書き初め!」をぜひ、読んでください。寅年の今年、「たかおこし隊」は一層、活動に勤しむ所存です。町民の皆さま、本年も宜しく願っています。

初め



播州織技術と商工観光
地域情報の発信



ラベンダーパーク多可 運営支援



道の駅 杉原紙の里 多可 運営支援

森から

黒川直樹

お陰様で写真展「多可町の森の人」が無事に終わった……はず？

というのも、今は写真展準備の真っ最中……約1000枚の写真を修整し、モデルさん1組ずつのウェブページに分配。これからチラシを作って、裏面にウェブページの案内を載せて、ああ、肝心の写真データ入稿もまだだった……眠りの世界でも準備の映像を見ます。そんな夢見心地で本誌「たかおこ誌

5号」の企画「書き初め」に参加。「森から」と書いたのは、今回の展覧会を通じて得られた経験を活かし、2022年の活動を展開したいと思っただけでした。展覧会の取材を通じ、イベントの時間を共有させていただいたり、お話をさせてもらったりした経験、じっくり育てていきます。

それと、もう一つ。千ヶ峰や妙見山、笠形山の生態系や山林の状態が、加古川や四国の海の生態系に影響を与えているという事実を知ったとき、ぞわっとしました。視点が変わったんです、多可町を見る視点が。そもそも、Microscopeと銘打った写真展。顕微鏡を覗き込むように、町を見たかった。それが……それが。山から海へ、多可町から播磨灘へ——土を耕し、道を整える森の人は、海をも守っていた！ 広大な俯瞰イメージの森から、いざ出発。12年ぶりに虎の威も借りて。

写真展に展示できなかった約1000枚の写真を公開中！



縁

橋本恵子

現状の私は、パークの仕事をまんべんなく経験している状況です。

パークに関わっておられる方がとにかくたくさんいて、自己紹介していないのに、したつもりになっている場合もあります。ご不快な思いをされた方がおられましたら、この場を借りてお詫びします……。

さて、私の書き初めは「縁」にしました。実はパークに来る前、ホームページのアルバイト募集広告を見て電話したのです。「来てほしいのだけど、住まいはどちらですか？」と聞かれて「西宮市です」とお伝えしたところ、「地元の人を中心に、有償ボランティアで来てもらっているけど、大丈夫？」とのこと……生活に不安があるのは私も辛いので、アルバイトは諦め、また遊びに行く約束をして電話を切りました。そんな折、多可町の地域おこし協力

隊募集を知り、多可町で何かしら働きながらお休みの日にパークでボランティアしよう！ と思い立ち、応募。面接後に連絡があり、「ラベンダーパークで働くのはどうですか？」とお言葉。パークの理事長と役場の方で話してくださりまさかのご縁をいただきました。というわけで多可町にいられたのは何かの不思議な縁。今までもたくさん縁に助けられました。2022年もたくさん縁が生まれるように、1日1日を大切に過ごしていきたいと考えています。

べっぴん彼女！

吉岡潤

去年は引越越しに、転職、YouTube 始動、など目まぐるしい変化に戸惑いの1年でありました。

ただ、そんな私が毎日を笑顔で過ごせたのはひとえに周囲の人々の手厚いサポートがあったからだと思っています。道の駅の皆さん、役場の皆さん、地域おこし協力隊の皆さん、同居人の2人どなたがかけても今年は走り切る

ことが出来なかったと感じます。この場を借りて感謝を述べたいと思います。さて、様々な変化に見舞われた昨年でしたが、ただ1つ変わらないうことがあります。独り身であることではありません。ここに関しては変化なし、



無風であり、非常に不甲斐ない結果となつてしまいました。2022年地域おこし協力隊としての活動を通して、多可町という地域の良さを全国に発信する中で、アピール力を自分自身磨くことで、個人としても売り込む力を身に付けたいと思います。吉岡おこし協力隊入隊希望の方いらつやいましたら、お声がけをお願いします。こんな私ですが、昨年お世話になつた皆様、今年もどうぞよろしくお願ひ致します。

私 の 書 き



空き家利活用と移住定住業務



地域商社RAKU 運営支援



地域商社RAKU 運営支援

報恩謝徳

この四字熟語はbōon ankie deba (オエンキター)と読みます。

多可町で協力隊として着任して早くも2年目を終えようとしています。

全く知らない土地に右も左もわからないような、知らない若者がこの町にやってくる、受け入れていただくどころか、多可町の方々には本当に助けていただき、感謝しきれない思いでいっぱいです。

山崎 葉

楽しく 楽しく

小迫 悠香

2021年は、地域おこし協力隊としても社会人としても1年目で、慣れないことやわからないことばかりでとりあえず『働く』ということに精一杯の日々でした。

その中で、新しいことをたくさんさせていただき、学ぶことも多かった反面、多方面で自分のスキルアップの必要性をヒシヒシと感じさせられました。日々たくさんの方に支えていただき

多可町らしく 自分らしく

多可町のふるさと納税を担当して1年が経過しました。

兵庫県の地域資源認定である神戸ビーフを取り扱ったり、新たな返礼品を登録したり、ポータルサイトのページを見やすいように作り変えたりしました。

広告にも力を入れ、昨年の4月には



最終年度となる今年度はこれまで以上に受けた恩や恵みに感謝することを忘れずに、業務や多可町の発展に取り組んでいきたいと考えております。

ながらで、まだまだできないことだらけの私ですが、2022年は、その中でも自分しかできないことをしてみたり、スキルアップに励み『楽しい』と感じる余裕を少しでも作れるようにしていきたいです。

今年、なにをするにも『楽しく 楽しく』、明るく前向きに自分らしくいろんなことに取り組んでいけるような1年にしていきたいです。

ひと月で4,400万円以上の寄附が集まりました。

今年度のふるさと納税の目標金額は2億5千万円です。達成するために、自分で画像編集をしたい気持ちが強くなり、勉強することになりました。

お手本にするのはふるさと納税全国1位の宮崎県都市です。まだまだ敵いませんが、気持ちだけは負けないよう、見習えるところは見習っていききたいと思えます。

返礼品の内容も多可町らしさを大切に、事業者さんと二人三脚で進め



寺川 敏博
地域商社RAKU 代表
地域プロジェクトマネージャー
エアレーベン八千代 支配人

地域おこし協力隊の任期が終わり、多可町に定住した寺川さんが、書き初めた字は「一」。「一つ、一つ、コツコツやっていきます!」



ていきたいと考えております。申込みが増えたときは、事業者さんと一緒に喜んでいただけるようになるにやりにやりに感じています。

事業者さんから、「ふるさと納税の返礼品に出したいんだけど……」とお話があったときはとても嬉しかったです。

今年もその様なお話がいただけるように、ふるさと納税をもっと大きくしていきたいです。来年度はふるさと納税目標金額3億円を目指して努力します。

地域商社RAKUが 東京の展示会に出展

11月24日～26日に東京ビッグサイトで行われた「次世代ヘルスケア2021」という展示会に参加してきました！ 来場者数は約8000人ととても大きな展示会で、様々な分野の方が来られていました！

今回の出展では、睡眠市場という新市場への販路拡大や多可町の良いものをアピールすることを目的とし、播州織のナイトウェア、ラベンダーピロミスト、ラベンダー精油、甲南女子大学とのコラボ商品「国産ひのきの安らぎディフューザーセット」を展示しました！

準備の段階では、ナイトウェアの開発スケジュールがタイトで、完成が間に合うか不安でした。でも、素敵な製品に仕上げていただいたので、自信を持って展示会に臨むことができました！

展示会の当日は、ラベンダーの香りで引き寄せられて来てくださる方が多く、さっそくナイトウェアの生地を触ってもらって「気持ちいい！」と好反応。今後、お話が進みそうな企業さんもチラホラ…11月24日～26日の3日間で150人ほどの方がRAKUのブースに来てくださいました！

のストーリーをお伝えし、引き込むことほできて、睡眠に対するエビデンスを聞かれた際に、まだ根拠が弱いということを再確認できたので、今後の課題として取り組んでいきたいです！

もしかしたら、今回の展示会で出会った製薬会社さんと共同でその課題を解決できるかも……？

近年は、コロナの影響もあり、より一層健康や睡眠の分野が注目されている中で、多可町の自然や産業を活かし、その分野で新しいことができたらしと思っています。

(小迫 悠香)

たかおこし隊の新番組、放送開始

組と、YouTubeにアップする動画があります。

前者は隊員の活動に密着した映像と隊員ミンスピーチの短縮版、後者は全隊員のミンスピーチ・完全版。どちらも月に1回の更新です。ぜひ一度、ご覧ください。



たかおこし隊の新番組「たかおこし隊が行く！ 男女6人たか物語」が始まりました。放送は2つ。たかテレビで見られる番組



近年、睡眠や医療の分野で、香りのリラックス効果が注目を集めているそうです。今回もグッズや寝具など、具体的な香りの商品に着目されている方が多く見られました。ただ、そういった方々にラベンダー製品や播州織のナイトウェア